

第 3 回 JABEE 定時総会概要報告

2002 年 5 月 15 日、13 時 30 分から建築会館ホール（港区芝 5-26-20）において、正会員学協会代表、賛助会員代表及び関係者約 90 名が出席、吉川会長が議長となり標記定時総会を開催し、提案議題の審議承認と各委員会の経過報告がなされた。なお審議、報告が終了した後、2001 年度技術者教育プログラムの本格認定審査を受け、認定された 3 高等教育機関に対する認定証授与式が行われた。

審議事項概要

本総会用に準備した第 3 回総会資料（以下資料と表示）に基づき、以下の 4 議案について説明・審議を行い、原案通り承認された。

第 1 号議案：平成 13 年度事業報告（案）及び収支決算報告（案）並びに監査報告、

当年度実施した主な事業は、理事会を 2 回、総会を 1 回開催したこと；6 月南ア連邦で開催されたワシントンアコード(WA)の第 5 回総会において、英語圏以外の国の認定団体として始めて JABEE の暫定会員資格が認められたこと；昨年度に引続き 45 高等教育機関の 51 技術者教育プログラムの認定試行を実施したこと；3 高等教育機関より申請された技術者教育プログラムの本格認定を実施し認定を与えたこと；審査員養成研修会を 3 回実施し参加者は約 320 名であったこと；11 名の審査員予定者が米国 ABET とカナダ CCPE の審査チーム実施の大学訪問審査のオブザーバとして参加したこと；オーストラリア技術者協会との間で相互理解の覚書を交換したこと；WA の調印団体である英国から 2 名、オーストラリアから 1 名、香港から 2 名の講師を招聘し国際フォーラムを実施したこと；及び本年度末時点の会員数は正会員が 83、賛助会員が 56 であった。

また当年度の収支決算状況は、収入総額が 43,883 千円、支出総額が 43,607 千円、収支差額が 276 千円であり、正味財産は 10,678 千円であった。

これに対し監事より決算は正確且つ適切であったとの監査報告がなされた。

第 2 号議案：平成 14 年度事業計画（案）及び収支予算（案）

当年度の主な事業計画は、30 の技術者教育プログラムの本格認定実施；40 プログラムの認定試行の実施；米国 ABET 及びカナダ CCPE 等の実施する認定審査の際オブザーバとして審査員予定者約 20 名を派遣；オーストラリア専門技術者協会(IEAust)が WA の 6 年毎の監視審査を受ける際にオブザーバを派遣；JABEE は WA の暫定会員資格から正規調印団体資格へ移行する為 WA 審査団による審査を受ける；審査員養成を目的としたワークショップ、或いはシンポジウムの開催；JABEE の法人化促進、及び産業界向けの啓蒙活動等を含むものである。

そして当該年度の収支予算(案)の内訳は、収入総額が 63,979 千円、支出合計 63,408 千円、次期繰越収支差額が 571 千円となっている。

第 3 号議案：定款の変更（案）

JABEE 創設時制定の定款は、その業務展開に対する学界、及び産業界との連携の必要性の増大や JABEE の法人化に対し実情に合わない等の部分が出てきているので、定款の目的、事業内容、役員や顧問の数、及び総会承認事項の内容変更、及び新規項目の追加等の必要がある。

第 4 号議案：理事一部変更(案)

今期は理事改選期ではないが、JABEE 専務理事交替を含め学協会会長の交代等の為、JABEE の理事 18 名中 10 名の退任と新任予定者があった。

報告事項

各委員会委員長からそれぞれ 2001 年度の経過報告がなされたので、それらの概要を下記に紹介する。

1. 運営委員会：当年度 8 回委員会を開催し、本格認定に伴う認定委員会、認定・審査調整委員会及び提訴委員会の新設、と既存委員会の一部変更、委員長及び委員の人選や規則の制定・修正等について審議し、方針を決定した。
2. 認定委員会：2002 年 3 月 14 日に開催した第 1 回認定委員会において、本年度本格認定の審査を受けた 3 技術者教育プログラムに対し認定を与える方針を決定、理事会の承認を得て公表した。
3. 認定・審査調整委員会：高等教育機関から提出された本格認定申請書の受付から、審査報告書を取り纏め認定委員会に提出し、その結果を申請高等教育機関に伝達する業務を実施した。
4. 総務委員会：当年度 12 回委員会を開催し、各委員会所掌外の業務、財務関係業務、ホームページ策定等の関連業務について審議・検討した。また JABEE の法人化のための業務を推進中である。
5. 基準・試行委員会：基準・審査委員会を標記の名称に変更し、委員会を合計 13 回と試行判定検討会を 1 回開催した。また 45 高等教育機関の 51 プログラムを対象に認定試行を実施したがその結果、認定基準-2 の学習・教育の量を 2000 時間から 1800 時間に変更する等基準の一部変更を行っている。
6. 事務局長連絡会：当年度 4 回連絡会を開催し、会員間の情報伝達と意思疎通に努めた。

引続き、当年度本格認定審査を受け認定を与えられた下記プログラムに対し、JABEE 会長から認定書が授与された。

工学院大学工学部基礎工学科の国際工学プログラム
名古屋大学工学部化学・生物工学科の分子化学工学コース
東京農工大学工学部化学システム工学科

以上で本総会を終了した。